

# やってみましょう 18 バッファを用いたデータ送信 をしてみよう

これまで、シリアル通信の基礎として、基本的なデータの送受信を学習してきた。ここでは、シリアル通信の応用として、バッファを用いたデータの送信を学習する。バッファを用いると、他の処理の裏でバッファにあるデータを、マイコンの負荷が少ないときに順次データを送信することができるので、データの送信を意識せずに他の処理に集中できるというメリットがある。この方法は少し複雑なので、付属 CD-ROM に納められている scic と sci.h をコピーしてバッファを用いたデータ送信を構築する。尚、同じ e-nuvo シリーズの e-nuvoWHEEL でこのバッファを用いたデータ送信を使ってログインデータを取得している。

## ■ 実験の概要

この実験では、e-nuvo BASIC のベース基板の上に搭載される CPU 基板の CN4 コネクタ(RS-232C)と PC を付属のケーブルで接続し、マイコンから文字を送信する。先回までと違うのはバッファを用いたデータ送信をする点である。

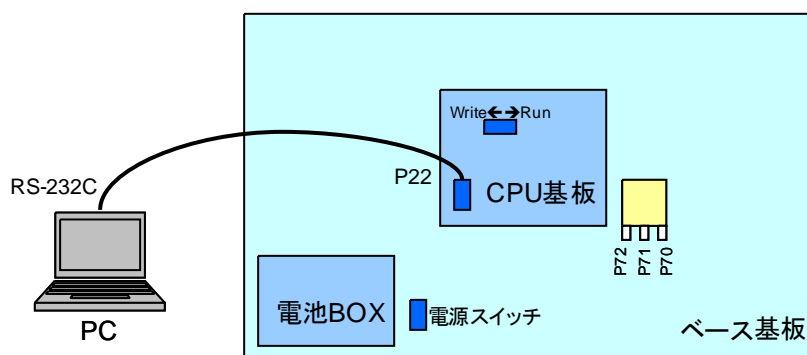


図 18.1 この実験の入出力構成と、配線図

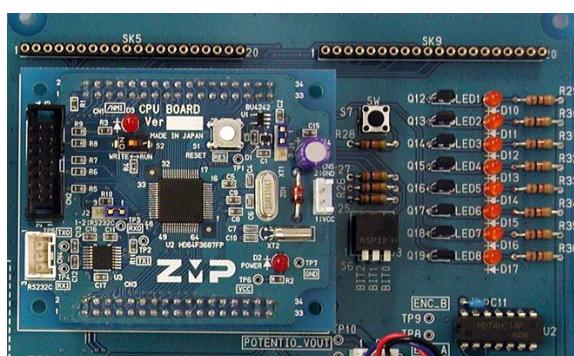


図 18.2 実験風景

実験の流れを、以下に示す。

基本的には、実験の進め方は今までと同様なので、H8 コンパイラ(HEW)や、フラ